



「ほんもの体験」「体験民泊」で「おもてなし」してみませんか？

民泊のススメ

今、旅が変わる!!

現在、一般の旅行や修学旅行が、「観る」観光から「体験型」の観光へと変化しています。旅行者は旅の進路を田舎に向けて旅立ち、旅先で農作業や漁業の体験などを喜んで行きます。それは、田舎で暮らす私たちにとっては決して珍しくない毎日の光景。日ごろの疲れを癒しに旅に出る私たちには、少し考えにくい発想かもしれませんね。こうしたニーズを説明するキーワード「ほんもの体験」「体験民泊」を紹介します。



民の泊 ススメ

「ほんもの体験」「体験民泊」とは？

「ほんもの体験」「体験民泊」とは、どんなものでしょうか。農山漁村で、農林漁業などで生活している人と仕事や作業を一緒にし、交流を行うこと。観光客用にアレンジされたものではない「ほんもの体験」。体験した人は、そこに本当の交流と本当の感動があるのだと、口をそろえて言います。さらに、これらの人の家に泊まり、食事を作ったり、一緒に食事をとったりする。そのこと自体を楽しみます。特に修学旅行や団塊の世代のニーズがあるのが特徴です。

なぜ、「ほんもの体験」「体験民泊」が求められるのか

今日の日本の社会では、多くの人が人間関係や仕事などのストレスを抱えています。都会の人々の中には、「心の豊かさ」のため、「人と人」「人と自然」など都市ではできない交流を求めています。旅行者は、私たちの日常的な暮らし（旅行者にとっては非日常的）に「癒しを感じる」のだと言います。



収穫の喜びを体験



「田植え」って楽しい！でも腰が痛い！

民の泊 ススメ

「ほんもの体験」「体験民泊」とは？

「受け入れる」といっていいの？」

私たち自身もまた、自らの生活に満足していたり、自分自身の幸せを確認できる機会がたくさんあるわけではありません。ですが、「ほんもの体験」「体験民泊」を通して「お互いのよいところを認め合うことができた」「感動する生徒たちを見て、自らのふるさとの良さを実感した」という人は多いようです。こうしたお互いの需要の一致が、「ほんもの体験」「体験民泊」の増加を後押ししているのだと思います。また、単なるボランティアではなく、副収入も期待できることから、産業としての期待も高まっています。

「地域や市のメリットも！」

市では、農林漁業などの担い手不足や高齢化が進み、耕作放棄地や人口減少などの問題が深刻化しています。市では「ほんもの体験」「体験民泊」により、交流人口を拡大させ、「南島原市」や地域が元気になるように、積極的に体験型観光を推進しています。受け入れた実践者には、普段の農作業などの仕事をしながら、「体験料」という副収入が入りますので、所得が増えます。また「観光客」と交流することで、「人と人」のコミュニケーションが生まれます。

「さらに広がる輪」

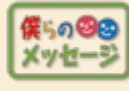
交流人口の増加は、観光客の食事や地場産品の購入、ひいては地域経済の活性化など、ほかの分野への良い影響も期待されます。また、地域内のコミュニケーションも活発になるので、地域全体が元気になるでしょう。

「あなたにもできる「体験民泊」」

体験民泊とは、まるで「親戚」をもてなすように「観光客」を宿泊させるもので、特別なものは必要ありません。お客さん用の布団と部屋があれば、あとは普段の生活で十分です。旅行者は、「あなたの普段の生活」を楽しみにしてきているのですから、飾らない自然体でいいのです。とはいえ、よくわからない、という人も多いでしょう。市ではこれからも、研修会などを開催し、皆さんの力になれるよう全面的にバックアップしていきます。

「ほんもの体験」「体験民泊」を实践する人を募集

南島原市を活性化させる体験型観光を推進するには、市民皆さんの力が必要です。「ほんもの体験」と「体験民泊」で、元気な南島原市をつくりましょう！「ほんもの体験」や「体験民泊」に興味がある人は、お気軽にお問い合わせください。
▼お問い合わせ 企画振興部 商工観光課 ☎050 (3381) 5032



何でも努力し、やりとげる。
テーマ「今年度、私はこれをガンバル！」 南島原市立 吉川 小学校 6年 名前 井口 佳奈子

いろんなことにチャレンジしてがんばる
テーマ「今年度、私はこれをガンバル！」 南島原市立 吉川 小学校 6年 名前 七條 涼花

